

科目区分：教科に関する専門科目（社会科教育専修）

授業科目名：社会学 I

授業の形式および内容面の双方からみる本授業の評価

社会科教育講座・中西典子

1. 本授業の位置

本授業科目は、主に社会科教育に所属する学生（2回生）を対象とした後期開講の科目であるが、中学校および高等学校免許取得のための教科科目として、また自由選択科目としても位置づけられているため、他教科や新課程の学生も受講している。なお受講者は27名である。

2. 本授業の目的

社会学は、高等学校までの教科には明確に含まれていない学問であるため、とくに小・中・高の教師をめざす学生の多い教育学部では、知名度が低い。2回生後期の開講という時期の問題もあり、受講するまで「社会学ってなに？」という学生がほとんどである。したがって必ずしも社会学に関心を持っているわけではなく、免許取得の必要性から受講を選択する学生に対し、社会学独特のものの見方や考え方を手ほどきすることが、本授業のねらいとなる。

3. 本授業の運営（授業を行う上での工夫）

本授業は社会学の入門編として位置づけられるが、社会学の概念や学説など知識として覚えるべき事は多く、到底半期の授業では、基本的な部分においてもそれらを網羅することは不可能である。そのため、『テキスト現代社会学』を指定し、毎回の担当章を決め、全員があらかじめ内容を読んで授業に臨み、各報告者は内容をより詳細に読み解き、その後全員で疑問点や理解困難な点を出し合って議論していくという方法を採用した。しかし、基礎知識が無く、入門テキストの内容ですら難解であるという状況のなかで、ほとんど討議が成り立たず、学生の質問に対して、教員が一つ一つ解説することとなった。

また、本授業の最終評価としてレポートを課したが、レポートでは、①テキストの概要ではなくその著者が読者に何を伝えようとしたのか、②報告を担当した章においてとりわけどこに重点を置いて報告したのか、またその理由は何か、③全

体の議論を通して理解したことやさらなる課題は何か、という三本柱を踏まえることとした。

4. 本授業の学生による評価にあたって

本授業は、自由記述方式での感想を重視している。50名以下の授業においては、択一式の定量的なアンケート方式では、表面的な結果しか得られず、また、あらかじめ用意された回答項目に限定されない率直な意見を引き出したいという理由に基づく。

以下、授業の形式面での評価と内容面での評価とに分類した上で、注目し得る回答を原文のまま引用する。

5. 本授業の形式面における評価

・授業では報告者の報告の時間と討論の時間を分けたほうがよいと思った。正直に言うと、私たちの班は討論に入ると自信がなかったのでとにかく報告時間を稼ぐようにしていたし、報告を聞くほうも討論時間を多くとったほうが授業への参加意欲も増すと感じた。

・今回のように、それぞれが担当の箇所を決めてプレゼンを行い、議論を行うやり方であるが、一方的に講義を受けるよりも、社会学という学問に親しみやすかったと思う。自分で内容を深めて、自分なりに内容を読み砕き、解釈をする。そうすることで、自分が担当した箇所だけでも理解を深めることが出来るからである。私は今回のプレゼン式授業を通して、社会学を研究していく面白さを感じる事が出来た。今後、もっと深い研究や内容について学んでいけるのが楽しみになった。

・講義が学生の報告型スタイルとなっているのが面白く、特に自分の担当した章の内容においては何度も読み込む中で確かな知識として身につけることができたので良かったと考える。

・2~3人という少人数で報告させていただいたことは本当に準備から発表まで、とてもやりやすかったです。しかし、発表中、テキストをまるまる全て読む人、その時の質疑応答の時間や先生の解説の時間

が無くなってしまふことが多く見られたので、そこは少し残念です。自分なりに調べて、雑学やその項目に関連する事柄などを報告していただけたところはとても自分の中でも勉強になりました。社会学は名前から、とっつきにくいものなのかな、と少し毛嫌いしていた部分が最初ありましたが、色々な分野に渡って様々な研究がなされていて、とても楽しい教科だなあと思いました。

- ・報告者は事前にレジュメを作り、工夫して発表していくので、発表者中心の授業であるにも関わらず、しっかりと質疑応答の機会が与えられ、意見を交流でき、だれもが主体的に授業に参加していけるような形式がとてもいいと感じた。反省としては、発表の際、教科書を読むだけというような箇所も多く見られ、自ら内容を補充したりといった工夫を施せなかったという点が挙げられる。これからは、発表の質を上げていかなければならないし、事前の調べ学習も入念に行わなければならないと強く感じた。

- ・この授業は、1つの章を担当し、発表する形式だったので、ある章は詳しいことまで分かるが、それ以外は浅いところまでしか分からないというのがとても残念だ。しかし、この授業をきっかけにして、自分で興味を持ったところはどんどん掘り下げていこうと思う。

6. 本授業の内容面における評価

- ・今回社会学という学問について考えさせられた。正直、大学に入るまで社会学という学問があること自体知らなかったし、社会学を受講するまで何を学ぶ学問であるかも良く分からなかった。社会学は、含まれている分野も様々で広く、面白いものであると感じた。

- ・この社会学の授業では聞いたこともないような単語や様々な理論を勉強することができたので非常に幅広い知識の獲得につながったと思う。また、われわれの社会に存在する多くの問題や理論をマルチに学ぶことができたので、一つの分野を深めていくよりもより多くの分野を学ぶことのほうが好きな私にとって、意欲的に取り組めた授業であった。

- ・社会学Iの授業を通して、今まで普段何気なく耳にしていたことや、目にしていたことについての詳しい情報が多く得られた。言葉は知っていても、どういふものなのか意味を知らないものがほとんどだった。また、社会学の取り扱う範囲が想像以上に広いことが分かった。非常に身近に起こっている社会問題も議論することができ、問題の現状を知る良い機会にもなった。私の担当した第三章の行為と集団も、意識しないと気付かないようなことにも思考を巡らせることで新たな発見もあり、あらゆることが

理論的に説明でき、また、その中でも説明できないこともあるのではという疑問も持つことができたようになった。なかには、疑問を持たせないほどに納得させられるものもあった。普段から、私自身、論理的に考えることが多いのでとても勉強になり、楽しく講義を受けることができた。全体で質疑応答をする時間があったため、いろいろな人の考え方や、疑問の持ち方なども聞くことができ非常に充実していた。社会学Iを通して、社会学の楽しさ、面白さ、難しさを感じることもできた。今回の講義で納得いかなかった部分や、疑問に思ったことについて機会があれば調べてみようと思う。

- ・今回の授業を通して、社会学がどのようなものか分かった気がする。様々な分野が含まれ、授業を受けていて幅広い知識が身に付いた。また、毎回飽きずに聞くことができた。

- ・現代社会では何が起り、どのようなものがあるのか全体の講義を通して感じることもできたと思う。社会学は常に新しい内容に更新されていく学問だと思うが、私たちが生きている社会においてどう行動を起こしていくのか考える要素にもなるだろう。議論などを通して他の受講生の考えなどを聞くこともでき、知識や自分の見識を深めることができた。

- ・テキストで取り扱っている内容が多岐にわたっていると同時に、わかりやすくまとめてあり、飽きずに関心を持って読むことが出来た。私は、テキストの内容を受容するだけの場合が多く疑問などが浮かびにくかったが、他者の思いがけない質問があり、それを聞いているだけでも勉強になることが多かった。発表については私自身も含めて、テキストの内容がほぼそのままの場合が多かったので、もう少し発展した新たな視点や情報が含まれているとよかったと感じた。

- ・受講生同士で質疑応答の時間にもっと発展的な話ができればよかったと感じた。それは受講生の積極性がない部分にも大きく問題があると思うが、先生のほうからなにか基盤になるテーマ？質問などを投げかけていただいた方がより話が活発になっておもしろいのかなと思いました。

7. 次年度への課題

形式面では、テキストを用いての報告+議論は好評であったが、要点や論点を絞った報告内容の工夫と議論の豊富化が課題である。

内容面では、社会学という新たな学問・知識の習得とともに、身近な問題に気付き、疑問を持ち、論理的に思考する能力を養う一助となったという意見を踏まえ、さらに内容を充実させていく必要がある。